



読字 原田 観

No. 774

2015/ 9/ 5

日中友好新聞

発行所

 日本中国友好協会
 〒113-8511 東京都荒川区西日暮里5-1-1
 TEL: 03-3811-1111

 日中友好協会
 岡山支部

 〒710-8256
 岡山県岡山市東区3-8-30-511
 TEL: 086(272)-3010
 郵便番号1100
 01250-0-3835

 日中友好協会
 倉敷支部

 〒713-8911
 倉敷市遊島中央1-8-4 (宮地方)
 TEL: FAX: 086(446)-2711

 日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rzhong.biz/>
 メールアドレス
 rzhong86@hotmail.co.jp


日中友好協会倉敷支部 写真展と「戦時下反戦放送」

・長谷川テルの生涯」朗読劇の開催

8月18日(火)から23日(日)倉敷支部は、倉敷9条の会と共催で、昨年末逝去された、元倉敷支部支部長大森久雄”平和を求めて、大森久雄カメラの記憶”写真展を開きました、海外を歩く事42回25回中国歴訪、どの旅も戦績の研習が目的です、日中戦争をはじめ先の大戦で人類がもたらせた負の遺産の数々遺構に立つて、自らの生き方を検証するかのようカメラを向けている、長年に渡る日本史学研究教師の強い信念を感じさせる。観光地の真ん中にある会場で写真に興味ある観光客の方も立ち寄っていた、順路をめぐり中、感じて考えていただいたことと思います。

写真展最終日 戦時下反



戦時下反戦放送・長谷川テルの生涯」朗読劇の上演、準備、練習の少ない中出演者が頑張ってくれました。

朗読劇と云うので、興味が有り参加した、中国から日本に向けて、殺し殺されないようにと、放送をしていた長谷川テルという人がいたことを知る事が出来た「残留孤児を

育ててくれた中国国民の考え方を知ることが、出来た」等感想がありました、出演者、参加者で今後中学、高校、大学のサークルでこの朗読劇を題材に取り上げていただけないか、申し込み、呼びかけて行くことが話し合われました。

 日中友好協会倉敷支部
 事務局 太瀬澄夫


戦後70年を問う

“女たちのおしゃべり会” 第3回 “中国残留孤児になった私” ～裁判で訴えたかったこと～

7月24日(金)13:00～語り手、高杉久治さん(中国残留孤児裁判岡山原告団長)の話を聞きに会場「コットン古都夢」に行きました。参加者は約20人でした。

高杉さんの裁判の時には傍聴に行きましたので初対面ではありませんが、このたびの印象は、とてもお元気で現在は幸せなのかと感じました。以前のきびしい表情とは変わっておだやかな顔つきになっていました。お話も、孤児になったいきさつ、優しい養父母の話など、中国での生活について、きちんと整理されている原稿をもとに、整然と話されました。

日本語は下手だと言われていましたがどうして、立派に理路整然と話をされ、参加された皆さんもよく理解できたのではないのでしょうか。私は、再び孤児を生み出すような戦争は、決してはいけないと強く思っています。同時に、あらためてこの孤児の問題は、いまだに解決されず、当事者の年齢が高くなって、介護など別の問題も出ているのではないのでしょうか。

日中友好協会倉敷支部

難波娃子

柳条湖事件84周年街頭宣伝

☆日時 9月18日(金) 11:00~12:00
 ☆場所 天満屋アリスの広場前
 ☆ビラまきとハンドマイク宣伝

今から84年前・1931年9月18日、中国東北地区瀋陽で日本軍が鉄道爆破事件を起こし、これを中国側の仕業として中国東北部への戦争を始めたのです。中国では「9・18」(チュウ・イーパー)と呼んで忘れられない日です。

この年から1945年8月15日のアジア太平洋戦争の敗戦まで約15年間も戦争を続け、中国人をはじめアジアの人々2000万人の命を奪ったばかりか、310万人以上の日本国民の命も失うことになりました。

戦後70年の今年、「日本を再び戦争する国に変えようとする安倍首相が背を向けてきた侵略戦争の真実」を多くの人に伝える、日中不再戦と憲法9条をまもり再び戦争のない平和な日本への願いを込めて宣伝を行います。多くみなさんのご協力をお願いいたします。

日中友好協会 倉敷支部総会

☆日時 9月26日(土) 10:00~12:00
 ☆場所 倉敷公民館

開拓団の足跡を訪ねる日中友好の旅①

日中友好協会岡山支部 小林軍治

はじめに

私は8月7日から12日まで表記の旅に参加しました。私の戦後70年を考えるうえで原点となる、誕生の地竜爪開拓跡地を訪ねるためです。

今回も過去3回(2005年、7年、12年)と同様に、青木先生の企画です。

行程は、(大連→図們→延吉市内→鏡泊湖→渤海国上京遺跡→牡丹江→林口→竜爪→七虎力→大八浪郷→樺

南→佳木斯→大連です。

この旅には、中国残留孤児」が生まれた開拓団跡地を、自分の目で見たいと山陽新聞の高見記者も同行しました。(8月24日の山陽新聞の朝刊に載りました。)

他の参加者は、長尾夫妻、青木さんのお兄さん、その友人の板野さん、日中倉敷の守屋さん、そして今回感想文を書いてくれた菱川さんの計9人です。

感想文 菱川勝美

つじもろこし畑が果てしなく続く景観が心に残った

今回の企画に便乗させていただき、私にとっては初めての中国東北地方の旅となった。メインは延吉から佳木斯までの9名のバスツアー。延吉は朝鮮族自治州の中心都市で朝鮮族が過半数を占める。丁度、古朝鮮の建国神話の舞台とされる長白山への観光シーズンで朝鮮からの観光客が多いと聞く。続いて、図們から北朝鮮を眺める。わが国の建設を示すのたろうか、1938年建設「図們江大橋」と日本

語の2つ銘板が橋の両脇に残る。例によって対岸の検問所に数人役人が見えるだけで北朝鮮の村に人影はない。次にジエオパーク鏡泊湖、渤海の都跡東京城と訪れるが、こうした観光地よりもむしろ心に残るのは、とうもろこし畑が丘を超えて果てしなく続く景観であった。緑の野に所々赤い屋根の小村落が点在するのみ。視界遠くの雲間から天から地上への通路のよう一条の光が降り注ぐ。その

昔、朝鮮半島を通過してわが国へと伝わった天孫降臨思想を生んだ原風景に触れたように思われた。

竜爪開拓跡地は、

小学生時代の村の風情

林口で高速道路を降り竜爪開拓団の村を訪れる。同行の小林氏は既に数回に渡って訪問しており、村人の一人は30年以上前の最初の訪問時の写真を手懐かしそうに迎えてくれた。村人たちは、今では廃屋となつている、唯一つ残る日本人家を案内し、自宅にも招いて内部を見せてくれた。住居は3部屋でやや手狭な感じであったが、数頭の牛を飼う庭では鶏が餌をついばんでいる。丁度小学生時代の私の村の風情である。日々の仕事ほどのようなものか等々、ききたいことは山ほどあったが、何しろ言葉が全く分からない。せつかく芽生えつつある交流の芽を恒常的な日中友好のパイプに育てていくためには、私たちの側が中国語を学習することが必須であると感じた。

美作郷でトラブル

午後は美作郷を訪ねた。

こちらは丘陵上のとうもろこし畑の細い道に行く。所々で情報を得ながら進み、最終的には一人の若者がバイクで15kmの道を標識地点まで案内してくれた。確かに三叉路の道路標識に「美作」の文字があった。美作郷でも村人から廃屋となった日本人家を教えられさらに二軒残っている

と言つて案内してもらったが、その家の主と激しい口論となつてしまった。断りもなく多数で押しかけたことが口火を切つたのかも知れないが、怒りの矛先は中国人ガイドに向けられていたようである。広がり続ける都会との格差に対する鬱積した感情が背景にあつたのかも知れない。いずれにし

ても、直接意思疎通することの必要性をここでも痛感させられた。中国語学習については過去にわずか一カ月で挫折した経験があるが、今回この旅行を教訓にもう一度挑戦してみようと思う。来月からでも?いやいや、让我们开始吧!

追伸 一御津公民館で中国語講座の開設を!

中国語の学習についてですが、もし、来年度にでも御津公民館で中国語講座が開設できるようになれば、講師の派遣はお願いできるのでしようか。

御津のKさんが中国語をやつておられるので、ご返事によつては相談してみようと思ひます。

集団的自衛権でアメリカに奉仕することで中国と軍事的対決を強めようとするときに、安保法制反対と並んで極めて重要な草の根市民運動の課題だと思われます。

次回の新聞送付作業は9月14日(月)午後1時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

林内井垣
小竹深三



竜爪開拓跡地で地元の人々と、右から4人目菱川、5人目小林、座っている人高見